移住女子発!

ちゅくる ChuClu

TAKE FREE

2013 夏号

「1000年先の未来へ」山の“つくる”場、ひと、こと、ものがたり

特集

移住女子 ～山と共に暮らす女子～

・・・・CONTENTS・・・・

特集！移住女子 ……4

下界におりて ……12
～移住女子の休日スタイル～

まないたリレー ……14

リアルむらぐらし ……16
～男子禁制ガールズトーク恋バナ編～

会いたいせがれ ……18

地域のちいさい1000年ストーリー
／ちゅくるを食べよう！
メニューコラボ企画スタート！ ……19

じさばさの天声人語 ……20
／編集後記

ちゅくるの語源

「中山間地に来る」という意味と、山地が生産の現場＝つくる場、というのをかけて私たちは、「ちゅくる」と名付けました。

移住女子とは？

中山間地に惚れて移住してきた女の子たち。
移住女子されど、心は地元女子。

私たちは、ばらばらでした。

お互いの存在すら知らなかったり、移住者同士の交流の機会は少なく、思いを共有したり、ましては何かを一緒にやり遂げるという機会はありませんでした。
「思い」が私たちを支えてくれていました
けれど、年数を重ねるうちに縁と輪は広がっていき、たくさんの方々が見守り応援してくださいました。そうして怖さと不安を乗り越えてきました。

のち、移住者同士で顔を合わせる機会が増え、ばらばらだった私たちがお互いの想いを共有できる時間が持てるようになりました。その中で、「中山間地を伝える冊子をつくろう！」と思いを共有した移住女子たちで「Ｃｈｕｃｌｕ（ちゅくる）」プロジェクトを始めることとなりました。

移住女子の地域への思いは皆同じです。

人がどんどん中山間地域から離れていく中でありながら、その地域に惚れ、また大切なものを繋ぎたくて移住しました。利便性と効率からはかけ離れているかもしれない。
けれどそこを愛し、強く生きる人たちがいます。
しかし地域を支える大切なものを読み取るには、現代はあまりにも忙しく、スピードが早く、情報過多で変化が激しく、山地が淘汰されるのを実感しながら闘っています。

中山間地域はなにかが産まれる「つくる」場です。「つくる」とは言え、山から与えられるものがほとんどですが、それに寄り添うことで、人も地域も仕事も時代も育まれてきました。この地域を１０００年先まで、目に見えるもの、見えないもの全てをかけがえのないバトンに乗せて繋いでいきたい。そして外から来た移住女子だからこそできる形で、地元の方たちとともに地域が長く続く礎となる冊子を作りたい。

小さな価値観の変化が足を止め、人を繋げ、後世に続くやさしい地域を作ると思います。そしてそれが私たち含む山地のひとたちの背中を押してくれます。
この冊子が、激動の変化の中でも普遍的な山地の記録であり、夢であり、奮闘であり、忙しい日々の中で心に吹く風になるよう、地域の皆様とともに移住女子一同努めてまいりたいと思います。

山に吹く風とおなじやさしさが皆様にも届きますように。

特集 移住女子

五味 希

移住女子のデータ

名前：五味 希
出身：東京都
年齢：23 歳
移住した年：２０１２年8月
住んでいる地域：
新潟県小千谷市塩谷
移住のきっかけ：
にいがたイナカレッジの
インターンシッププログラム（1 年間）
いまの仕事：
東山地区振興協議会にインターン中
好きな男性像：
目標に向かっている人！
座右の銘：やらぬ後悔よりやる後悔
休日の過ごし方：
ドライブ・サイクリング
好きなむらのご飯：ちまき (きなこ)

私は、「にいがたイナカレッジ」の一年間のインターン生として、新潟県小千谷市東山地区へやってきました。「地域の視点を学びたい！」それが新潟へ来た一番の目的でした。

学部では観光や農業に関するまちづくりを学び、まちづくり研究サークルにも所属しました。「住民にとっての〝まちづくり〟とは何か」そんな問いを心に留めながら、中山間地をはじめとする地域を訪れてはヒアリングを重ね、活気を取り戻すには何が必要か、学生にできることは何かを議論していきました。各地を訪れる中で、地域を誇りに思い、逆境を乗り越えようと奮闘する目の輝いた大人たちとの出会いがありました。この人たちのエネルギーはどこからわいてくるのだろう、どうやって地域の人を巻き込んでいくのだろう…。

ーもっとまちづくりを学びたい！ー

もっとまちづくりに対する見識を深めたいと思い、大学院へ進学しました。そして、たまたま見つけたインターンの募集「地域づくりを住民と一緒になって考える」、このフレーズに惹かれて「これだ！」と思って応募。今思うと、その直感は間違っていませんでした（笑）

一年間滞在する中で、数え切れないほどたくさんの〝魅力に感じるところ・好きなところ〟が見つかりました。例えば大みそかの神社のしめ縄作りに参加した時、村の男衆が集まり、藁から大きな縄を作る。雪が降りしきる中、「木遣り」と呼ばれる歌を歌いながら神社へと奉納へ向かう。代々続いてきた村の歴史の一ページを、今、同じ空間で共有している、それは私にとってとても感動的な出来事でした。一方で、今年で九年目を迎える中越地震の残した傷跡、人口減少、葛藤、人口の減少…地域の抱える課題もよく見えてきました。どうすることが一番良いのか、それはとても難しいことで、村の人曰く「答えはない」のかもしれません。

住んでみなければわからない、そんな地域の良いところ大変なところ、それらを日々感じながら、毎日がジグソーパズルのピースを見つけては、はめていくような感覚。いろんな人の話を聞いて、少しずつ少しずつ地域を理解して、そして全体が見えてくる。その繰り返しです。

普段は、地域で行われるイベントの手伝い、「地域の将来を考えるきっかけとなる」住民アンケートの実施や、地域の女子会開催、忘れられつつある昔の暮らしについての聞き取りなどを行なっています。外から来た者として、地域のどこに価値を見出したか伝えたい、そして、いつか外からこの地域へ来るかもしれない人へバトンを渡したい、そんな思いを込めて「これを読めば東山がわかる！」地域の出来事をまとめた冊子作りにも取り組んでいます。それが一年間、本当に貴重な経験をさせてくださった地域の方々へ、わずかばかりのお返しとして、自分の果たせる役割なのではないかと思っています。この一年の経験を、「良い経験だったな」と終わらせるのではなく、将来〝地域の視点と都市の視点〟どちらも持ち合わせた人間として、社会に貢献するためのスタート地点としたいのです。

国重要無形民俗文化財である牛の角突き、
牛の散歩へ同行（朝日集落にて）

大みそか、しめ縄を担ぎ、
村の鎮守様へ向かう（塩谷集落にて）

山の匠に教わって山の暮らしを楽しんでいます。

ー結婚は移住する手段？ー

灰色と黒ばかりの環境でずっとお仕事していると、目が自然と緑のものに向かうようになりました。そんな折、自然を体感したいという目的で岩手県遠野市のツアーに参加しました。馬搬職人さんが新月に切った木を、馬を使って山から降ろす伝統の作業（地駄引き）を見たり、休憩時間に職人さんが雪上で火を焚いて、沢から汲んできた水を沸かしてコーヒーを飲んだりするなどの体験をしました。職人さんとしてはなんてことないことかもしれませんが、火はガスコンロのスイッチを押して出すもので、お水は蛇口をひねって出るものという頭があったので、衝撃的なことでした。この経験から「自然にそった暮らしをしてみたい」と強く思う様になりました。

最後に、移住の気持ちを強くした背景には、東日本大震災があります。震災後、スーパーにお米を買いに並んだら目の前で売り切れてしまって「このままではだめだ」と思いました。この経験は物流に頼った都会の食糧維持の脆弱性を強く感じると共に、都会に住むことは生きる力を奪っていくと感じました。平成十六年の中越地震で被災した新潟県長岡市川口のある集落では、道が寸断されていて自衛隊が入れなくても、自分たちがつくったお米、野菜、保存食で十分に食事ができたり、亀裂の入った道路を自分たちで直して自衛隊の人が入れる様にしたりしたそうです。

遠野や川口で生きる力の強い人たちに出会い、「何かを自分でつくる力、何かを自分で考える力は、生きる上で大切だ」という想いを強くしました。そして、それは地方でこそ養うことができるのではと考える様になり、移住の気持ちがより一層高まりました。

結婚を機に新潟県長岡市に移住してきましたが、移住希望先である川口には空き家がなく、仕方なく長岡の街場に住んでいます。私たち夫婦の夢は「川口に住むこと」。今は川口に畑を借り、行き来しながら空き家を探しています。来年は田んぼを借りれることになりました。自然に沿った豊かな暮らしを実現できるように、そして、地域の風土を継承して次世代に伝えられるように、少しずつ歩みを進めていきたいと思います。

集落のばあちゃんが作ったお茶のパッケージを一緒に考えました。

特集 移住女子

栗原里奈

移住女子のデータ

名前：栗原 里奈
出身：千葉県
年齢：27 歳
移住した年：２０１２年4月
住んでいる地域：新潟県長岡市
移住のきっかけ：
「生きる力を養いたい」
と思っていたから
いまの仕事：地域プロデュース
（地域の魅力を発掘して、イベントやツアーを通して都市部の人に伝える）
好きな男性像：やさしくて強い人
座右の銘：
勇気一秒。後悔一生。
休日の過ごし方：畑仕事
好きなむらのご飯：山菜の天ぷら

私は結婚を機に移住したので、〝必然的に来ざるを得なかった〟と見られますが、もともと「地方に移住したい」という気持ちがありました。

私は千葉県松戸市というベットタウンに生まれ育ちました。夏休みはよく静岡の親戚の家に両親に連れて行ってもらいました。江戸時代に建てられた親戚の家の縁側が大好きでした。外から吹き流れる優しい風、鳥の声や葉のかすれる音、そこで流れるゆったりした時間。今でもその感覚や時間を覚えています。しかし、自宅に帰ると周りは家ばかり。ゆったりした時を過ごす場所や余裕も感じられません。「縁側のある家でゆったりした時を暮らしたい」という気持ちは芽生えていました。

短大を卒業後、機械を直す仕事に就きました。機械があるところはグレーアウトな世界。

特集 移住女子

坂下可奈子

移住女子のデータ

名前：坂下 可奈子
出身：香川県
年齢：２６歳
移住した年：2011 年２月
住んでいる地域：
新潟県十日町市池谷集落
移住のきっかけ：集落で行われていた農業体験をきっかけに
いまの仕事：農業、NPO からの委託
好きな男性像：
さまぁ～ずの三村みたいな！
座右の銘：おらがおらがの我よりも、おかげおかげのげで生きよ
休日の過ごし方：
おいしいものを食べてます
好きなむらのご飯：魚沼コシヒカリ

はじめまして、坂下可奈子です。香川から、大学で上京し卒業後平成二十三年に豪雪地帯の十日町市池谷集落に移住しました。

大学では、法学部政治学科でアフリカの紛争解決が専門。当時は、どうしたら戦争や紛争がなくなり、平和を作れるのだろうと考え、ケニアやルワンダにも行きました。

しかし世界という大きな単位から変えようとするのでなく、まず日本の小さな単位をよくすることが、大きな幸せに繋がるのではと思うように。そして欲望やエゴが渦巻く紛争の中でいながら、地域をよくするのは「こころ」なんだと気付きました。

そんな中、ＪＥＮという国際ＮＧＯに出会いました。当時彼らは池谷集落で中越地震からの地域おこし活動をし、その農作業ボランティアに私は参加し池谷と出会いました。

ー価値観を変えた池谷集落ー

当時六軒十三人、半数以上が七十代のおじいちゃんおばあちゃんの集落との出会いは衝撃でした。そこにあるのは、山と農に生きる人たちの強く広い人間性、そして集落を存続させたいという強い思いでした。

東京にいたときはすごい大人は沢山いましたが、池谷ではこういう大人になりたいと思う人達に出会いました。

もう一つ、私の価値観を変えたものが。私は小さい頃からスポーツもよくし、よく食べ、太りやすい方だったので、女子にしてはガタイもよくコンプレックスでした。中学からいろんなダイエットをし痩せては太っての繰り返し。周りに体型のことを言われると、今の私を否定されたようで私を見失い、痩せたい、かわいくなりたい…その乖離で苦しんでいました。結果、過食と拒食の狭間で、高校を(ぐれて?)行かなくなったときも。

そんな心を埋めるように、稼いでは高級ブランド品を消費するつまらないプライド人間でした。

そんな中、池谷に来るとごはんが本当においしくて、いつも食べ過ぎて。「あぁまた東京戻ったらダイエットしなきゃ」とつぶやいたとき、村の人が「なんで？いまのままでもいいのに」と言いました。「そうは言っても…」

けれど何度も通ううちに、作物が寄り添ってくるのでした。池谷のブナ林から、私たちには計算も造形もできない仕組みの中で、豊かな土壌と水はゆっくり巡り、作物はそれを栄養に風に吹かれ、何度も星を見送り、何度も太陽を迎え、草刈りをする村人とともに、太陽にも炙られる。作物のその小さな体には、長い物語と沢山の風景、そして寄り添う人が詰まっています。その懐のなんと大きいこと。「日本の隅っこの山奥で、こんな私の食さえ支えてくれている人達がいた」。

そして「笑っておいしそうに食べる可奈子の顔が一番いい」と言われ、徐々に自分のことも好きに…。作物はこころを変える。集落と農業を一緒に繋ごうという思いに加えて、このような食に対する思いで挑戦が始まりました。

条件の悪い山地での農業、生計を立てることはとても大変です。人が離れていく山地で、九割大変なことですが一割の喜びと感動が全てをカバーしてくれます。なにより山と人が好き。まだまだ私は挑戦の途中です。

集落の直販米「山清水米」の栽培もしています

早朝の朝靄の風景はどこも幻想的

特集 移住女子

渡辺加奈子

移住女子のデータ

名前：渡辺 加奈子
出身：大阪府
年齢：31 歳
移住した年：2008 年 4 月
住んでいる地域：長野県栄村
移住のきっかけ：「むらの人みたいになりたい」と思ったから
いまの仕事：NPO 法人栄村ネットワーク勤務・農産物の直売・体験交流施設「あんぼの家」の企画運営
好きな男性像：栄村が好きな人
座右の銘：素直さと謙虚さと感謝の心を忘れない
休日の過ごし方：むらの父ちゃん・母ちゃんとお茶のみ、草刈り、料理
好きなむらのご飯：お米、あんぼ、塩煮芋（しょうにいも）

大阪生まれ、大阪育ち。栄村の人口は約二千二百人。住んでいた街の人口は栄村の約百倍、面積は十分の一。自然があるというには程遠い街で私は育ち、大学に行くまで「都会」の世界観しか知らずに生きてきました。

しかし、栄村との出会いで、「都会とは違う世界がある」と気づかされました。

栄村を知ったのは、大学での調査研究。その当時、社会は「ムダな公共事業」や「市町村合併」が問題になっていました。そんな中「自立をする村」と題する栄村の当時の村長高橋彦芳氏の著書を手にし、これを機に、私は栄村を訪れることに。

栄村のむらづくりに興味を持ったけれど、「栄村」そのものに惹かれていきました。大学を卒業後は就職し、休みのたびに大阪から七時間以上かかる栄村へ。

スキー場から青倉集落を臨む

―栄村の人たちみたいになりたい―

テーマパークもない、目立った観光スポットもあるわけではない。けれど栄村に〝通う〟。ただ栄村の人たちに会いに行き、お茶のみしておしゃべりするのが楽しかったんです。

そうやって〝通い〟続けることで、栄村をより知ることになりました。

いままで食べたことのないお米や野菜の美味しさ、ほっとする自然環境、暮らしのすべてが自然に基づきその中で、そこから身につけている知恵と技術、共同の精神…。何よりも、よそ者の私を温かく迎え入れてくれる人たち。

栄村には、人も、時間も、「価値」や「優先順位」の基準さえも都会とは違う「世界（観）」があると気付き、いつしか「栄村の人たちみたいになりたい」と思い始めていました。

「とりあえず一年住んでみたい」。そんな思いで仕事を辞め、栄村青倉集落へ移住。

地元のＮＰＯに所属し、都市農村交流や、農産物の直売を行ない、もう五年がたちました。

この五年間で、小さいながら（手入れが悪いが）自家用のお米や野菜を作ったり、郷土料理もいくつか覚えました。けれど、はたと気づいたら、最初に来たころと、村の様子は少しずつ変わってきています。

直接的には、平成二十三年三月十二日の長野県北部地震がある。急にじいちゃん・ばあちゃん達のパワーがガクンと落ちているように感じます。

私が好きなのは、じいちゃん・ばあちゃんたちが繋いできたむらの暮らし。けれど、自分が築いたものではなく、「与えられてきた」もの。「後継者」と言われれる世代も、サラリーマンが増えています。むらの暮らしを続けられる人って、どれぐらいいるのだろうと思うと、すごく少ない。しかし、それがなくなると、栄村にいる意味はない。むらの暮らしを自分が受け継ぎ、繋ぎたいと強く思うようになりました。

「あんぼの家」はそんな思いで作りました。古民家を拠点に、栄村の郷土食を学んだり、交流できる場を作る。いまはまだ駆け出しだけれど、「あんぼの家」を「受け継ぐ・繋がる場」にしていきたいです。

いま、栄村には若いＩターン、Ｕターン者が増えつつあります。その若い人たちと一緒になって、栄村がずっと続いていく村へしていきたいと考えています。

あんぼの家でむらの食を学ぶワークショップも開催。

下界におりて 越後湯沢編

～移住女子の休日スタイル～

今日は山おります！

たまには山を降りて、おしゃれして、美味しいものを味わって“enjoy”したい！都会とはちょっと違った楽しみ方、新潟ならではのスポットを、移住女子４人がお届けします！

1 魚沼キュイジーヌ料理 むらんごっつぉ

新潟・魚沼のこだわりの食材を味わえる、素材そのものの味”を大切にしているお店です。おしゃれで落ち着いた雰囲気の店内は、女子会ではもちろん、デートでも来たい！

前菜は魚沼野菜のオーブン焼き。主菜は越の鶏のステーキ。もちろんお米は自慢の魚沼産こしひかり。「こんな料理の仕方もあるんだ～、今度やってみよう♪」料理の勉強にもなりました！

農業女子
可奈子のつぶやき

生産者と料理人の出会いってすごく大事だと思う。大事に作ったものを、大事に料理してくれる、息が合わないと“いいもの”は作れなくって。ここの料理はすごく魅力的。美味しいです♡

2 ていすてぃんぐGALLERRY 越の室

新潟と言えば…そう、日本酒！新潟にはなんと 95 の酒蔵があります。ここでは各酒蔵の代表銘柄がすべて試飲できるのです。こんな料理と合わせて飲みたいなぁ…と妄想も広がります (笑)

お気に入りの地酒が見つかる！

受付カウンターにて 500 円で専用メダルを 5 枚購入。
ズラリと並んだ利き酒マシンからお好みの地酒を選んで、メダルを入れたら Let’s 試飲！

迷った時は聞いてみよう！

飲みすぎ注意!!

ウイスキー樽で貯蔵したお酒、新潟名産ル・レクチェと合わせたお酒などなど、変わり種の日本酒との出会いも！

3 酒風呂　湯の沢

日本酒の入りお湯なので、ほのかな香りにほろ酔い気分？！駅の中にあるので、電車に乗るまでの時間のリラックスタイムにもお勧めです。旅の疲れを癒して、また明日から頑張ろう！と思う４人でした (^^)

今回訪ねた場所

【魚沼キュイジーヌ料理　むらんごっつぉ】

南魚沼郡湯沢町湯沢２４５５
Tel.025-784-3361
営業時間/ランチ：11:00～2:30
夜のコース：18:00～21:00（要予約）
定休日/水曜日

【ぽんしゅ館/ ていすてぃんぐGALLERRY 越の室 酒風呂　湯の沢 】

南魚沼郡湯沢町湯沢2427-3（JR越後湯沢駅構内）
Tel.025-784-3758
営業時間／4～12月 9:00～18:00(湯の沢 10:30～17:30)
1～3月 9:00～20:00(湯の沢 10:30～19:30)
年中無休

まな板リレー

～つなげたい、まな板の上の芸術～

まな板ランナー ①

長岡市川口荒谷集落

宮 ミヨさん

「かぐら南蛮と茄子の油炒め」

「かぐら南蛮」をご存知でしょうか？長岡野菜の一つにも数えられ、肉厚で大きい唐辛子の一種です。新潟県長岡市山古志での栽培が有名。独特な形が神楽のお面に似ていることから名付けられました。ピーマンと交配しやすく、山奥でしか本当の形・味は出ないといわれています。

かぐらなんばんをつくり続けて十年以上という、新潟県長岡市川口荒谷に住む宮ミヨさん。旦那さんが大好きで作り続けているそうです。かぐら南蛮の本当の美味しい辛さを求め、山古志の人に種を分けてもらって、それから自分で種を取り続けています。四月くらいに種まきを始めて、できた苗はご近所さんにおすそ分け。夏に実がなったら、家に来た人たちにおすそ分け。「育てる喜びと、あげる喜びと、嬉しいよ」とミヨさんはかわいいにっこりとした笑顔で語ってくれました。

～材料～

- かぐら南蛮（小さいサイズなら５つくらい）
- 茄子（中くらいのサイズなら２つくらい）
- 味噌（大さじ３杯くらい）
- 砂糖（大さじ２杯くらい）
- お酒（大さじ１杯くらい）

～つくりかた～

〈かぐら南蛮と茄子の油炒め〉

①かぐら南蛮と茄子を食べやすい大きさに切る。

◀

②フライパンに油をいれてかぐら南蛮、茄子の順に入れて中火で炒める。

◀

③かぐら南蛮がしんなりしたら味噌、砂糖、お酒を入れて中火で炒める。

◀

④全体に調味料が絡んだら盛り付ける。

移住女子の胸の内・・・。コイバナ編

りあるむらぐらし

ーむらぐらしの本音を語る。「どうする結婚！！」ー

既婚女子が語る『結婚は移住のカナメ』

「ここにいたいから、結婚」

２０１１年４月十日町市に移住。
地元 NPO に勤務、地元男子と入籍予定

小佐田　私は東京都大田区出身で、池谷集落でやっているボランティア活動参加したことで、何度か通ううちに、体験交流イベントなどの企画側に回りたいと思って移住をしました。旦那さんとは人の紹介で出会い、結婚することに。

　でも、親は移住する段階から大反対。「なんで彼氏作ったの!?」と言われたり。でも、この地域で結婚することに抵抗はなかった。むしろ、ここにいたいから、この地域の人と結婚したかったんです。結婚に当たり、仕事を辞めなきゃいけない葛藤もあったりしたけど、子育ても新しい生活も大切だと思っています。

地方に暮らしたい

渡辺　里奈さんは、結婚して地方に来ることに、不安はなかったの？

栗原　移住することに不安はなかったよ。仕事を辞めることも、抵抗がなかったの。それよりも「地方で暮らしたい！」という思いの方が強くて。幸い、いまも六本木農園の仕事が続けられていて、長岡に来てからも、その経験や繋がりがとても役立っているよ。

　でも、長岡に来たときは、冬の雲の日の多さにびっくり！気分が落ち込んで、冬うつになっちゃったな。それなのに、長岡よりさらに雪の多い川口に住みたいって思ってるの。それは夫婦二人の目標で、雪が多くて大変かもしれないけれど、同じ目標を持っているから頑張っていけると思うんだ。

どうする結婚!!　未婚女子の胸のうち・・・。

いつも「綱引き」

栗原　出会いとか、ないの？

坂下　そうですね、けっこうハードルが高くなっちゃう。「この集落で一緒に住む」というのが一番壁になってる。

　この辺りで出会う男の子たちって、「せがれ（長男）」として残っている人が多い。だから「嫁に来て欲しい」っていう人がほとんど。「嫁に来て欲しい」、「私は池谷を出ない」で綱引きになって、ペンディング。どっちを選ぶのが幸せかわからないですけれど、この場所（集落）と人がすごく好きで、この集落と農業を繋いで残したいと思って池谷に移住した。最初の気持ちは今も私の核。綱引きになる時はいつも辛いし苦しいです。

小佐田　難しいですね。「婿を取る」ような感じで、同じような思いを持つ人を連れてくることが出来ればいいけれど…。

「嫁」と「移住者」は…。

渡辺　やっぱり村の中では移住者は「変わった人」と見られているだろうから、「きっと『変わった人』と思われているんだろうな」と思うと、気が引けてしまって。村の人たちは、保育園、小中学校からの繋がりがずーっと続いている。すでにあるコミュニティの中には、ポンと新しく来た若い人は入りづらくて…。でも、「嫁」としてきた人は、その中に入っていける。

　むらでの暮らしは、雪掘りだったり、農作業だったり、一人で暮らすには限界があると思う瞬間がある。なので「誰かいればなぁ」と思うことあるけれど…。

地域の中の家族

五味　私は来たときは「一年間のインターンが終わったら、東京に帰る」という気持ちでいたんですけど、インターン先での話を聞いていると、人と人のつながり、顔の見える家族同士の付き合いだとか、子育てだとか、地域の中で暮らしていくというのが魅力的に見えた。だから全然、地方の家族像というものを知らなかったけれど、みなさんみたいに、「地方に住みたいな」という気持ちも出てきました。

小佐田　知っているおじいちゃん・おばあちゃんが周りにいると、安心するよね。

渡辺　その安心感が「ここにいても大丈夫」と思わせてくれるもんね。

総括

お金があればどうにかなる都会の一人暮らしにくらべ、むらでの一人暮らしは、パートナーの必要性を感じる。ましてやむらは、「家族」で成り立ち、幸せそうな人たちを見ると、とても家族が欲しくなる。悩める移住女子の明日はどっちだ!?

会いたいせがれ♥

ー宮 真則ー

せがれデータ

- ■名前　宮真則
- ■どこで会える？
  新潟県長岡市川口荒谷
- ■年齢　２７歳
- ■職業　米農家
- ■休日の過ごし方　寝て過ごす
- ■好きな食べ物　カレー
- ■好きなタイプ　心の広い人

荒谷に居続けることを選んだ理由

生まれたところだから愛着がある。田んぼは今までじいちゃんや父ちゃんが守ってきたもの。兄弟はいるけど、誰も田んぼ仕事をやろうとしない。誰かがやらなきゃならないなら自分がやらなければ、と思った。

仕事に対する誇り

昔ながらの無農薬栽培で米を少しずつだけど、つくり始めた。人間は虫や植物があるから生きられている、生かされていると思う。でも、現代は農薬や人間が自然を壊してる。だから、かつては行っていた無農薬栽培をすることでこの土地や環境を守っていきたいと思っている。

♥会いたいポイント♥

目に留まるのは剛腕な二の腕。日々農業で培われた隆々たる腕は、とても逞しい！八重歯の見える優しい笑顔も素敵です！

ムラの小さい1000年ストーリー

移住女子がみた、映画のようなむらすがた

橋場さん

自信

橋場さんの軽トラに乗って山から帰るとき、若い農業者に覇気がなかったという話に。

「でもね、農業やってると、やっぱり他の職がきらびやかに見えて、おらも若い頃自信がなかった。でも、出稼ぎでいろんな職に就いてみて、なにをするにも自信がなくちゃやれないと思った。自信はなくても持つ。根拠のない自信が本当の自信になって、覇気になって、光るんだ」

いま厳のような橋場さんの、若い頃を想像する。

自信とは、誇りと少し似ている。

そして誇りが、この小さな村を支えている。

ひぐらしの声が、ひときわ高まっては山に落ちた。今日のこの夕日も、トウモロコシの葉に掴まった蝉の抜け殻も、闇に沈み、星間に吸い込まれ、この山の気流に消えてゆく。自信かぁ…。

ちゅくるを食べよう！

メニューコラボ企画スタート

＼ちゅくる定食！？／

SUZUDELI

＼FAAVO お礼お菓子など／

Patisserie Cafe VIGO

＼ちゅくるペンネ！？／

越後妻有のごちそう家ごったく

「ChuClu」第1号発刊に合わせて、長岡市のSUZUDELIさん、Patisserie Cafe VIGOさん、十日町市の越後妻有のごちそう家ごったくさんにて、ちゅくるコラボメニューが今夏より実現！売上の一部はChuClu制作費にあてられます。移住女子たちの生産物や地域のものを使い、共同でメニュー開発をしました。また、各店舗での発刊記念イベントも計画中…。開発の様子や詳細は、順次webや誌面にてご報告いたします！魔法をかけられた地域の恵みをぜひ味わいに来てくださいね。

【スズデリ (SUZUDELI)】
長岡市千秋2-278リバーサイド千秋1F
tel.0258-94-4960
営業時間／11時～22時
年中無休

【Patisserie Cafe VIGO】
長岡市上除町西1-17
tel.0258-46-4873
営業時間／10時～19時半(火～金)
10時～19時(土・日・祝)
定休日／月曜

【越後妻有のごちそう家ごったく】
十日町市本町 6-1
tel.025-752-5505
営業時間／ 17 時半～23 時 (LO22 時)
定休日／日曜

じさばさの天声人語

今日のじさ
トマト農家・曽根武（７７）

１０代までは一人でなんでもできるように思えるんだ。けどな、大人になると一人ではどうでも解決できないようなことに直面してくる。それを二人で乗り越えるために、結婚するんだよ。

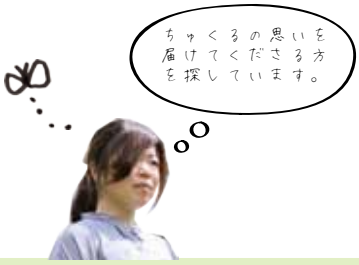
編集後記

「ChuClu」（ちゅくる）は、地域応援クラウドファンディングサイト「FAAVO」でご寄付、ご支援いただきました皆様、私たちの活動を見守ってくださった多くの方々のお力で発刊することができました。本当にありがとうございました！人がどんどん離れてゆく中山間地域、ましてや豪雪地帯のこの地域を1000年先まで、人も暮らしも、山も、ものがたりもかけがえのないバトンが繋がってゆくことを願って、私たちの挑戦は続きます。そして仲間が増えると嬉しいです。今後も日本のすみっこの小さな地域の挑戦と私たちの成長を温かく見守り、そして応援いただれば幸いです。どうぞ今後とも長いお付き合いのほど、よろしくお願い致します。
(坂下可奈子)

ChuClu × SoulVillageSTATION 六本木農園

9月7日（土）開催！

昼の部 「発刊記念！サンキューパーティ～移住女子のおもてなし～」
【参加費】 3,000 円 【時間】12時～
夜の部 「六本木農園名物！農家ライブ～移住女子たちと食～」
【参加費】 お食事代のみ【時間】19時～
※参加お申し込みは上記お問い合わせ先までよろしくお願い致します。



「ちゅくる」を置くスペースをくださる方
移住女子とコラボメニュー、コラボ商品を開発してくださる方
ちゅくるを広く広報してくださる方、その他とにかく移住女子とチャレンジしたいことのアイデアをお持ちの方！
お気軽に下記お問い合わせ先よりご連絡いただければ幸いです。

ChuCluちゅくる vol.1 夏号 (2013年8月15日発行)
発行人 にいがたイナカレッジ事務局(公益社団法人中越防災安全推進機構 復興デザインセンター)
ライター 坂下可奈子（編集長）渡辺加奈子（副編集長）栗原里奈、五味希 **制作・事務局** 日野正基 (にいがたイナカレッジ事務局)

問い合わせ・連絡先
〒940-0062 新潟県長岡市大手通り2-6フェニックス大手イースト2階 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい内
TEL：0258-39-5525 FAX：0258-39-5526 E-mail:chuclu@inacollege.jp URL:http://inacollege.jp/

Iターン留学 にいがたイナカレッジ